



きらきらひかる

汪國香織 BOOK



この物語の主人公は奇妙な新婚夫婦だ。妻の笑子は少女のように無邪気だけれど、情緒不安定でアルコール中毒。夫の睦月は同性愛者で男の恋人がおり、女である笑子にはキスもしてくれない。ふたりの間には、「恋愛感情」はない。セックスもしない。それでも一緒に暮らしたいと思い、すべてをわかりあって結婚した、はずだった…。

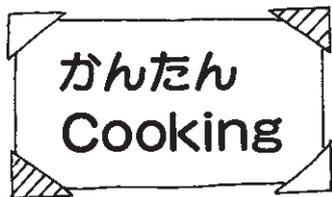
ひとがひとを好きになる気持ちにはいくつもの種類がある。と、思われている。恋愛感情と友達への気持ちは違うだろうし、親が子供を愛する気持ちも別の種類の愛情だと。でも、そのいちばん根本、すごく基本的なところでは、その区別は曖昧なんじゃないだろうか。「きらきらひかる」の笑子と睦月は、たしかに愛し合っているし、お互いを大切に思っている。その気持ちが友情なのか、家族愛な

のか、恋愛なのか、決めるのは難しい。けれど、ふたりの不思議な、でも強い関係を見ていると、そんなことを決めるのがばからしく思えてくる。睦月の恋人の紺くんは「僕は男が好きじゃないう。睦月が好きなんだ」と言う。それを聞いた笑子は「それじゃあ私とおんなじだ」と思うのだ。好きだということ、一緒にいたいということ。笑子たちにとっては、それですべてなのである。

もちろん、うまくいかないことだってある。大好きな相手だからこそ、自分とのズレにイライラさせられることにもなる。笑子と睦月は、たとえば「うそ」についての考え方が決定的に違って、そのせいで行き違いを繰り返してしまう。周囲の人たちに対して常に誠実でいたいと願う睦月と、「言葉なんてほんとのことを言うためのものじゃないと思ってい

る」と言う笑子。笑子は、睦月との生活を守るためなら親や親友にうそをついて睦月が同性愛者なのを隠し通すことだって平気でやろうとする。睦月には、それをすんなりと受け入れることがどうしてもできない。大好きなひととでも、わかりあえないことが必ずある。この物語は、そんな心の痛みをピュアなままやわらかく浮き彫りにするのだ。そして、その痛みにもかかわらずひとはひとを好きになってしまうのだということが、読んでいて痛いほどよくわかる。

恋をしたり信じあったりするのは無謀なことだ、どう考えたって蛮勇だ、と作者はあとがきで書いている。それでもそれをやってしまう、たくさんの向こう見ずな人々にこの本を読んでほしい、と。あなたには今、好きなひとはいますか？大切に思えるひとはいますか？ (ロビ)



エッグトースト

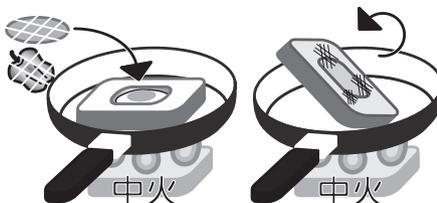
- 材料 (1人分) ○
- パン (6枚切) : 1枚
- たまご : 1個
- ハム : 1枚
- ピーマン : 1/2個
- とろけるチーズ : 適量
- マヨネーズ : 適量
- その他、お好みで○

晴れた空、そよぐ風。行楽の季節がやってきました！ 5月の穏やかな気候に誘われて、青空の下でお昼を食べてみませんか？

今月のかんたんCookingはピクニックにぴったり。フライパンで簡単に作れちゃうエッグトーストです。(ならっちょ)



① 真ん中をくり抜いたパンを、あたためたフライパンにのせ、切り抜いた部分にたまごを落とす。



② ハム、ピーマンを細かく切って、全体に散りばめる。しばらく焼いてからひっくり返す。



③ 黄身が固まる頃にもう一度ひっくり返して、チーズとマヨネーズをトッピングする。火を止めて、チーズがとろけたら完成！



はみだし
すてーじ

寒い…。載るころは？
⇒晴れた空！ そよぐ風！ お弁当を持って旅立ちましょう。

(医短・1 魔女のタマゴ)
(あなたの旅立ちを応援する編)